

# 奈良県感染症情報

平成 26 年 第 24 週( 6 月 9 日～ 6 月 15 日)  
 奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)  
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

## 今週の概要

- 小児科外来情報
- 保健研究センターだより (6月)     ～時季外れの感染性胃腸炎～

## ◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たりの患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	4.74	(6.03)	↘	↓	↘	↘
2	A群溶連菌咽頭炎	1.76	(2.29)	→	→	↘	↑
3	水痘	1.26	(1.00)	↗	↑	→	↓
4	咽頭結膜熱	1.15	(1.09)	↗	↑	↓	↑
5	ヘルパンギーナ	0.94	(0.47)	↑↑	↑	↑↑	↑↑

発生状況: 大流行 流行 やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)  
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの変化   ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓減少

## ◆ 県内概況 ◆

感染性胃腸炎は少し減少し、例年並みの患者数で推移しています。  
 A群溶連菌咽頭炎は全県的には減少していますが、奈良市保健所管内では高いレベルを維持しています。  
 咽頭結膜熱も例年より高いレベルで推移しており、奈良市、郡山、吉野保健所管内で多く、特に奈良市保健所管内では、急増しています。  
 ヘルパンギーナが増加、とくに葛城、内吉野保健所管内では急増しています。  
 A群溶連菌咽頭炎、咽頭結膜熱、ヘルパンギーナはどれも、飛沫感染(患者のくしゃみのしぶきなど)や、接触感染(握手、タオルの共用など)から感染します。感染予防の基本は、手洗いとうがいです。また、咳エチケット(マスクする、咳・くしゃみをするときは口を覆い飛沫を飛ばさないようにする)を心がけましょう。

## ❖ 小児科外来情報 ❖

### 北部地区(矢追医院)

外来患者数は少なくなっている。6月になりインフルエンザは無くなりました。感染性胃腸炎もウイルス性はほとんど無く、溶連菌咽頭炎も一服した感があります。咽頭結膜熱、ヘルパンギーナ、手足口病といったなつかぜがそろそろできています。

### 中部地区(岡本内科こどもクリニック)

夏外来数は減少傾向。インフルエンザは3週間前から見られなくなった。  
 咽頭結膜熱が流行、検査キットで陽性に出にくいが見られるようになった。  
 ヘルパンギーナが僅かづつ見られるようになった。  
 感染性胃腸炎は嘔吐を主とするノロウイルス様が流行。細菌性を疑う例は少ない。  
 ロタウイルスは今冬ほとんどなかったがワクチンの効果か。  
 A群溶血性連鎖球菌感染症は減少。その他水痘が少し。

### 南部地区(県立五條病院小児科)

ロタウイルス胃腸炎はほとんど発生なく、嘔吐のみの胃腸炎が散発している。また、咽頭発赤のみ(軟口蓋に小紅斑を伴う場合あり)で、咳嗽・鼻汁を伴わない熱性疾患が増加。例年の夏風邪に比し、全身状態は良好で今のところ髄膜炎合併症はない。

## ❖保健研究センター6月だより ～時季外れの感染性胃腸炎～❖

感染性胃腸炎は、例年晩秋から流行し、冬季にピークをむかえ春季には沈静化しますが、今年は4月に入ってから胃腸炎集団事例が県内で多く発生しています(表)。また、例年と比較すると感染性胃腸炎患者の定点当たり報告数は高い水準で推移していました(「❖注目疾患の動向❖」参照)。そこで、ウイルス・疫学情報担当では、2014年4月から5月にかけて発生した胃腸炎集団事例の原因ウイルスについて一部遺伝子解析を実施しましたので解析結果を報告します。

当センターで胃腸炎集団事例の原因究明のための遺伝子検査を実施した結果、この時期としては多い12事例からウイルスを検出しました。検出したウイルスの内訳はA群ロタウイルスによるものが2事例、ノロウイルスによるものが10事例です。

A群ロタウイルスの2事例は遺伝子解析の結果、いずれもG2P[4]型で通常の病原体サーベイランスでは発生頻度の低い型であったことが判明しました。

一方、ノロウイルスはGIによるものが1事例、GIIによるものが8事例、GIとGIIの複合が1事例となっています。遺伝子解析の結果、これまであまり検出されることがなかったGII/6によるものが6事例と最も多いことが判明しました。最も発生頻度が高く、過去に何度も大きな流行をもたらしたGII/4は、この期間は2事例に留まっていました。

以上の結果、A群ロタウイルス、ノロウイルスとも通常の流行時には発生頻度の低い遺伝子型のウイルスが今回の調査期間中は主流であったことが判明しました。A群ロタウイルスはワクチンが2011年以降我が国で導入され、ワクチン導入後に検出した市中流行株の情報からワクチン導入の影響をみるため、またノロウイルスは新たな亜型(特にGII/4)の発生によって大きな流行が発生することがあるため両ウイルスの発生動向に注視し、迅速な注意喚起に繋げていきたいと考えています。

感染症の流行予測には平時の病原体サーベイランスによってベースとなる情報の蓄積が重要です。病原体定点医療機関の先生方には、引き続き検体採取のご協力の程よろしくお願い申し上げます。

表. 病原体ウイルスを検出した集団事例一覧

発生月	発生施設	検出病原体
4	保育園	A群ロタウイルス G2P[4]
4	保育所	ノロウイルス GII/6
4	保育所	ノロウイルス GII/6
5	飲食店	ノロウイルス GII/4
5	養護学校	ノロウイルス GI、GII/4
5	小学校	ノロウイルス GII/2
5	小学校	ノロウイルス GII/6
5	小学校	A群ロタウイルス G2P[4]
5	幼稚園	ノロウイルス GII/6
5	小学校	ノロウイルス GII/6
5	幼稚園	ノロウイルス GII/6
5	小学校	ノロウイルス GI/5

こちらのホームページも参考にご覧ください。

〈厚生労働省ホームページ〉 ノロウイルスに関するQ & A

<http://www.mhlw.go.jp/topics/syokuchu/kanren/yobou/040204-1.html>

〈厚生労働省ホームページ〉 ロタウイルスに関するQ & A

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/Rotavirus/>



(ウイルス・疫学情報担当)  
保健研究センターだより 平成26年 6月

❖ 定点把握感染症報告状況 ❖

平成 26 年 第 24 週 6 月 9 日 ~ 15 日

保健所別報告数	奈良県		北部		中部		南部	
	奈良市	郡山	桜井	葛城	内吉野	吉野		
インフルエンザ定点数	55	11	16	11	11	3	3	
インフルエンザ								
小児科定点数	35	7	10	7	7	2	2	
RSウイルス感染症	3 (0.09)				3 (0.43)			
咽頭結膜熱	39 (1.15)	13 (1.86)	17 (1.70)	2 (0.29)	3 (0.43)		4 (2.00)	
A群溶連菌咽頭炎	60 (1.76)	36 (5.14)	11 (1.10)	4 (0.57)	7 (1.00)	2 (2.00)		
感染性胃腸炎	161 (4.74)	30 (4.29)	57 (5.70)	29 (4.14)	35 (5.00)	5 (5.00)	5 (2.50)	
水痘	43 (1.26)	19 (2.71)	12 (1.20)	4 (0.57)	8 (1.14)			
手足口病	7 (0.21)		6 (0.60)		1 (0.14)			
伝染性紅斑	1 (0.03)				1 (0.14)			
突発性発しん	18 (0.53)	9 (1.29)	4 (0.40)	3 (0.43)	1 (0.14)		1 (0.50)	
百日咳								
ヘルパンギーナ	32 (0.94)	5 (0.71)	5 (0.50)	4 (0.57)	16 (2.29)	2 (2.00)		
流行性耳下腺炎	3 (0.09)	1 (0.14)			2 (0.29)			
眼科定点数	9	1	3	2	2	0	1	
急性出血性結膜炎								
流行性角結膜炎	5 (0.56)	2 (2.00)	1 (0.33)					2 (2.00)
基幹定点数	6	1	2	1	1	1	0	
細菌性髄膜炎								
無菌性髄膜炎								
マイコプラズマ肺炎								
クラミジア肺炎								
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)								

❖ 全数把握感染症報告状況 ❖ ( )は保健所別内訳

1類感染症	
2類感染症	結核7件(奈良市3、郡山3、吉野1)
3類感染症	
4類感染症	
5類感染症	

❖ 第 24 週のトピックス ❖

NICN研修会「知ってるつもり?!結核」の開催(県内全ての医療従事者対象)  
<http://www.pref.nara.jp/item/121991.htm#moduleid17426>

<速報>2013年度の侵襲性肺炎球菌感染症の患者発生動向と成人患者由来の原因菌の血清型分布 —成人における血清型置換(serotype replacement)について—

<http://www.nih.go.jp/niid/ia/diseases/ha/pneumococcal/1373-idsc/iasr-news/4729-pr4132.html>

上段 : 報告数  
 (下段) : 定点当たり報告数 報告数÷定点数

年齢別報告数

年齢区分	年齢	0-5M	6-11M	1歳	2	3	4	5	6	7	8	9	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-	合計	累計
インフルエンザ	男																						5965
	女																						
RSウイルス感染症	男								1		1												1
	女																						2
咽頭結膜熱	男		2	4	3	1	1	4	1				1										19
	女		2	7	1	2	1	2	1	2			1										20
A群溶連菌咽頭炎	男			1	1	3	3	7	2	1	6	2	5										31
	女			1	1	3	8	4	2	3	3		3			1							29
感染性胃腸炎	男	1	4	8	11	9	7	5	6	1	3	4	10	1	9								79
	女		3	9	6	11	14	4	4	3	1	2	7	1	17								82
水痘	男			2	6	1	3	5	3	2	1	1											24
	女			1	3	4	6	3	2														19
手足口病	男				3	1	1						1										6
	女				1																		1
伝染性紅斑	男					1																	1
	女																						1
突発性発しん	男		5	4																			9
	女		3	4	1	1																	9
百日咳	男																						
	女																						
ヘルパンギーナ	男		2	6	2	2	3		2														17
	女			1	4	5	3	1		1													15
流行性耳下腺炎	男				1						1												2
	女												1										1
急性出血性結膜炎	男																						
	女						1	1															2
流行性角結膜炎	男																						2
	女															2					1		3
細菌性髄膜炎	男																						3
	女																						1
無菌性髄膜炎	男																						5
	女																						1
マイコプラズマ肺炎	男																						1
	女																						1
クラミジア肺炎	男																						
	女																						
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	男																						18
	女																						18

❖ 注目疾患の動向 ❖ 全て定点当たり報告数

■ H26 ▲ H25 □ H24 〰 過去10年平均

